

日本子ども虐待防止学会は 「子ども虐待防止」のための 調査・研究とソーシャルアクションを 行っています。

「日本子ども虐待防止学会」は、1994年に「日本子どもの虐待防止研究会」として発足しました。2004年12月より「日本子ども虐待防止学会」に名称を変更し、2013年12月「一般社団法人日本子ども虐待防止学会」となりました。子ども虐待防止を目指す医療・保健・福祉・教育・司法・行政などの実践家・研究者、学生などが参加し、活発な活動を行っています。

■ 組織 ■

委員会	会則検討委員会
	虐待に関する制度検討委員会
	学術雑誌編集委員会
	広報委員会
	国際活動委員会
	学術集会支援委員会
	選挙管理委員会
	倫理・COI委員会

各種ワーキンググループ(WG)	CDR制度構築WG
	障害児虐待予防WG
	当事者ユースWG
	専門性の基盤づくりWG
	虐待予防WG
	子どもの権利を守るWG
	COVID-19対策WG

2021年11月現在の活動

入会案内

■ 入会条件 ■

子ども虐待防止を目指す、医療・保健・福祉・教育・司法・行政などの実践家・研究者、NPO関係者、学生など

■ 年会費 ■

正会員	7,000 円
学生会員	3,500 円
団体会員	14,000 円
賛助会員	10,000 円

●詳しくは JaSPCAN ホームページをご覧ください



一般社団法人

日本子ども虐待防止学会

事務局

〒162-0826
東京都新宿区市谷船河原町6番地
キャナルサイド呉竹 1F

Tel / Fax 03-3269-2900
email info@jaspcan.org
HP <http://jaspcan.org/>



JaSPCANのHPに
移動します



一般社団法人

日本子ども虐待防止学会

Japanese Society for Prevention of
Child Abuse and Neglect



2022年2月版

ごあいさつ

一般社団法人 日本子ども虐待防止学会 理事長
岩佐 嘉彦

一般社団法人日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）は、医療、保健、福祉、教育、司法、行政等様々な分野の専門家達が集まり、虐待を受けている子どもや不適切な養育に陥っている保護者への支援のあり方を研究し、また、子どもの虐待防止に関するソーシャルアクションを行う団体です。

子どもの虐待に関わることは、とても大切なことで、しかし、時に多くの困難を伴います。一つの分野だけで対応

することもできません。関係者が集まり、情報を交換し、それぞれの考え方の違いを理解して協働することが、虐待対応の現場においても、研究の分野でも求められています。私たちは、毎年開催される学術集会や定期的に発行されるジャーナル等を通じ、交流を深めています。多くの皆様が仲間に加わって頂くことを期待しています。

主な活動

01 学術集会 開催

会員が研究、臨床、教育などの成果を発表し、新しい知識や考え方を学ぶための学術集会を年に一度開催しています。

02 学術雑誌 発行

「子どもの虐待とネグレクト」を年3回発行し、会員の研究や実践の成果を掲載しています。

03 声明・提言・ 意見書等 発出

社会情勢を鑑み、積極的に声明や提言等を発信しています。

04 シンポジウム 等開催

会場を設けての開催に加え、WEBでも配信してまいります。

05 ニュースレター 発行

会員に向けて、広く学会の動向や子ども虐待に関する新しい情報や動き、学術集会の情報等をお知らせするため、年に2回発行しています。あわせてメールマガジンも配信しています。

06 委員会・WG 活動

子ども虐待をテーマに、各領域において積極的に活動しています。

子ども虐待の現状

厚生労働省によれば、2000年の「児童虐待の防止等に関する法律」が施行された2000年11月20日から2018年度末までに虐待によって亡くなった子どもの数は1,506人に上っています。内訳は、2000年の同法施行から2003年6月末日までの統計* [1] で127人、その後の統計* [2] で1,379人（心中以外の虐待死833人、心中による虐待死546人）です。また児童相談所での「児童虐待相談対応件数」は、2018年度159,838件となり増加の一途をたどっています* [3]。しかしこれらの数字は公的に把握された件数であり、実際には見過ごされている虐待死や発見されない子ども虐待があると考えられます。

入会のお誘い

私たちJaSPCANは、多くの領域の人たちと連携し、研究を進め、子ども虐待を早期に発見し、また、発生や再発を防ごうと努力しています。専門分野においてすでに子ども虐待への取り組みを進めている方、これから子どもと家族に関わろうとしている方々のご入会をお待ちしております。

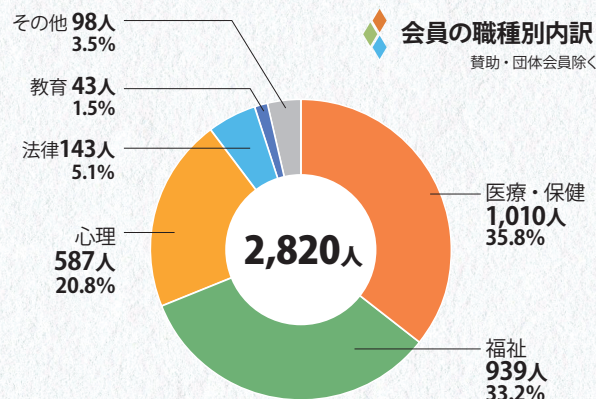
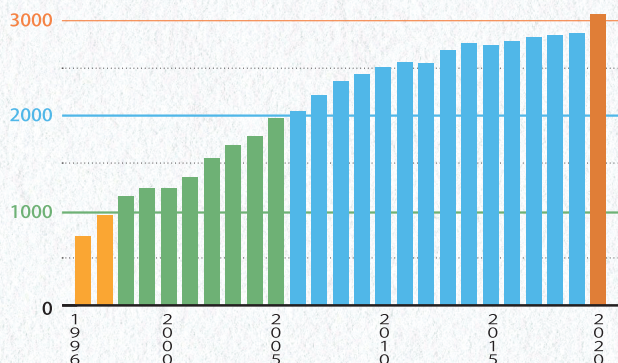
出典

* [1] 「児童虐待死亡事例の検証と今後の虐待防止対策について」（2004、厚生労働省 雇用均等・児童家庭総務課 虐待防止対策室）（学会注：この調査においては心中と心中以外の区別はなされていない）

* [2] 「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第1～16次報告）」（社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会）による。

* [3] 福祉行政報告例による。

会員数の推移 2020年9月集計



会員の職種別内訳
賛助・団体会員除く

